

ソフトウェア・バージョン 2.1 の新機能

KRONOSソフトウェア・バージョン2.1では、大幅にグレードアップしたCX-3と、ライブ・パフォーマンスに最適ないくつかの新機能を追加しました。ロータリー・スピーカーの回転状態のリアルタイム表示、コンビネーション/ソングでのティンバー/トラックのミュート機能の動作モードの追加、ペダル・コントローラー等の外部MIDIコントロール・チェンジによるプログラム・アップ/ダウン等のファンクション・アサイン機能などがあります。

これらの新機能に加え、KRONOSをさらに使いやすくするための動作向上なども行いました。

以前のソフトウェア・バージョンをお使いの方は、コルグ・ホームページから最新ソフトウェア・バージョンを無償でダウンロードできます。

CX-3の大幅なアップグレード

CX-3(Tonewheel Organ)エンジンのエフェクト・セクションを大幅にアップグレードしました。アンプ、ロータリー・スピーカー、ビブラート/コーラスのサウンドがよりリアルになりました。

- ・ ウォームでスムーズなオーバードライブ・サウンドが得られる新しいアンプ・モデルを追加しました。エクスプレッション・ペダルによる自然な音量と音色のコントロールが可能です。
- ・ 3つの新しいスピーカー・シミュレーション・モデルを追加しました。Natural (状態のよいビンテージ・ロータリー・スピーカーの綿密な解析によるモデル)、Resonant (ペダル・エフェクトからヒントを得て開発したモデル)、Bright (ミックスに埋もれない音抜けのよいブライتناモデル)の3つの基本タイプがあります。そして、それぞれにHigh/Low帯域にダイレクト音を拡張したバリエーションの3タイプ、計6タイプを追加しました。従来のCX-3タイプに加えて7タイプから選択できます。
- ・ マイク・ディスタンス・コントロールを刷新し、ステレオ感をさらに向上させました。
- ・ ロータリー・スピーカーの音響特性の細かい改善を数多くおこない、サウンドやリアルさを大幅に向上させました。
- ・ ビブラート/コーラスの精度を向上させ、よりオリジナルのトーンホイール・オルガンの特性に忠実になりました。

CX-3 Basicページの新規パラメーターAmp/VC/Rotary Modelにより、これまでのバージョン (Classic CX-3) と新規バージョン (Custom) とを切り替えることができます (→PG p.214 "Amp/VC/Rotary mode")。また、プリロード・プログラムを新規バージョン用に更新しました。これまでのバージョンとをそれぞれ必要に応じてロードすることができます。(→「新しいCX-3プログラム」)

CX-3 Classic、Customのどちらを使用の場合でもJS X (ジョイスティックのX軸方向: ピッチベンド) でロータリー・スピーカーの回転スピードをビンテージ・オルガンと同じように切り替えることができます。ジョイスティックを左側に倒すとコーラル (スロー)、右側に倒すとトレモロ (ファスト) になります。(→PG p.226)

ロータリー・スピーカーのスピード・インジケーター

エフェクト・セクションまたはCX-3でロータリー・スピーカーを使用している場合、その状態 (ファスト、スローまたはストップ) が画面最上部に表示されます。この表示はロータリー・スピーカーのそのときの状態を示すもので、今、どのように聞こえるかが確認できます。

これらは"Speed SW"、"Mode SW"の設定とそれらのAMSによってコントロールされます。また、この新しいグラフィックはCX-3のPlayページでも表示されます。(→PG p.211 「ロータリー・スピーカー・スピード・インジケーター」)

新しいCX-3プログラム

アップグレードされたCX-3のためにプリロード・プログラムを更新しました。ダウンロードしたPRELOAD_V2.PCGを、KRONOSにコピーして、新しいプログラムをロードしてください (システム更新時に新しいプログラムは自動的にロードされません)。オリジナルのPRELOAD.PCGファイルは、KRONOSのディスク内にありますので、必要に応じてロードし直すことができます。

なお、新しいサウンドをロードする前に、必ずあなたのデータをセーブしてください。Save Allコマンドによる保存をお勧めします。(→OG p.178 「メモリーの内容をディスクに保存する」)

ミュート・モード

ソフトウェア・バージョン2.1では、コンビネーション、ソングでのミュート・ボタンの動作設定を選択できます。

これまでのコンビネーションのミュート・ボタンは、ティンバーのオーディオ・アウトプットに対してミュートを行いました。またソングでは、シーケンサー・トラックの演奏にのみミュート機能が有効で、キーボードでの演奏にはミュート機能は無効でした。音作りやソング作成を行うのに適したモードです。

バージョン2.1ではこのモードは新たに追加された"Mute Mode"パラメーターのStudioという設定で引き続き使用できます。この設定の他にLiveという設定を追加しました。こちらは、ライブなどでの使用を考慮したものです。

Liveでは、コンビネーションのティンバーに入力されるMIDI信号をミュートして、発音数の消費を抑えます。レイヤー・サウンドの組み合わせをMuteボタンで切り替えて演奏するときなどに適しています。ソングの場合もシーケンサーとキーボードからトラックに入力されるMIDI信号をミュートします。(→PG p.705 "Mute Mode")

ファンクション・アサイン機能

これまでのバージョンでは、リア・パネルに接続したフット・スイッチ (ペダル) と[SW1]、[SW2]のみに機能をアサインできましたが、バージョン2.1では外部MIDIコントローラーからのMIDI信号に対して各種機能をアサインすることができます。これにより、サードパーティ製のMIDIまたはUSB-MIDIフット・コントローラーのスイッチ類にそれぞれKRONOSの機能をアサインすることができます。使用できる機能はプログラム・アップ、プログラム・ダウン、オクターブ・アップ、オクターブ・ダウン、タップ・テンポ、コード・オン/オフ、リボン・ロックなどです。これらを同時に使用できます。(→PG p.728 「2-3: Function Assign」)